

2023年 5月13日

復活節第 6 主日

菊地功大司教 メッセージ

ヨハネ福音は、最後の晩餐の席上で、聖霊を与えると弟子たちに約束を繰り返すイエスの言葉を記しています。御聖体の秘跡のうちに常に現存されることを約束された主は、さらに愛する弟子たちに思いをはせ、またご自分が創造されたすべてのいのちへの愛に駆られて、常に変わらない聖霊の導きを約束されます。その愛に満ちあふれたイエスの御心に思いを馳せましょう。

「わたしが父のうちにおり、あなた方が私のうちにおり、私もあなた方の中にいる」

イエスに従うものが、共同体のうちにとともに生きていくことが、この言葉に示唆されています。聖霊は教会共同体に働き、共同体としてイエスの福音を明かすものであるようにと、わたしたちを導いてくださいます。主はともにおられます。

教会は、復活節第六主日を、「世界広報の日」と定めています。第二バチカン公会議の「広報メディアに関する教令」に基づき、「広報分野における各自の責務について教えられ、この種の使徒職活動のために祈り、援助のために募金するように (18)」と、1967 年に始まりました。

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、映画などにとどまらず、いまや時代はインターネットです。すべての人が、この使徒職に関わる道具を手に入れています。SNS などを通じてわたしたちは、誰でもいつでも、世界に向けて声を届ける手段を手に入れました。いまや、広報における使徒職は、特別な人や団体だけに限定された使徒職ではなく、すべてのキリスト者にとっての使徒職です。

この配信をご覧になる皆さんを含め、福音宣教のための道具を手に入れているのです。もう、福音宣教ができない口実を並べることはできません。わたしたちは、道具を手に入れているからです。

今年の第 57 回世界広報の日メッセージで、教皇様は、「心をもって話す」ことに焦点を当て、こう記されています。

「澄んだ心で相手の話の話を傾けることができれば、愛に根ざして真理を語れるようになります（エフェソ 4・15 参照）。面倒が生じようとも、真実を告げることを恐れてはなりません。ただし真実を告げる際、愛も心もないままにそうしていないかを気に掛けなければなりません」

心を持って語ることは愛のうちに語ることです。現代社会はインターネットという福音宣教の道具を手にしながらか、同時に「真実を捏造して操作する偽情報を持ち出すこと」すら可能となっています。わたしたちは、ともにおられる主に導かれ、聖霊に照らされながら、主の愛を受けて、心をもって語るものでありたいと思います。